

91 RISにおけるRI受付業務の改良と運用について

Transmutation and Operation of Radiology Information System

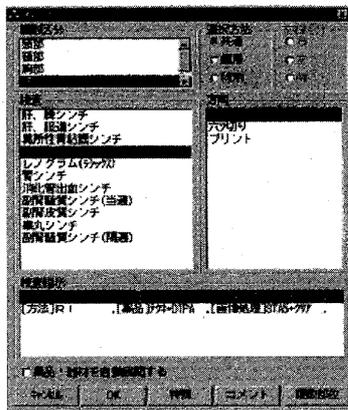
市立岡崎病院放射線科

○加藤英樹
(Hideki Katou)高橋弘也
(Hiroya Takahashi)鈴木康夫
(Yasuo Suzuki)奥田保男
(Yasuo Okuda)宮原政春
(Masaharu Miyahara)

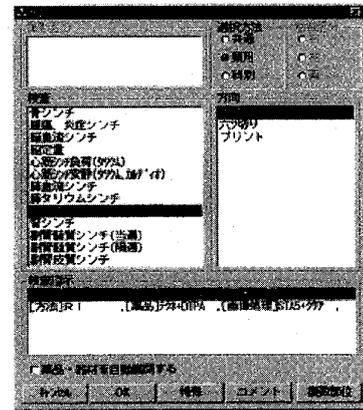
【目的】当院では、平成8年10月より放射線オーダーリングシステムが、スタートした。従来のRI受務は、電話予約を一冊のノートでこなしていたためRI検査の知識および高い熟練度が要求されていた。そこでオーダーリングシステム導入を機にRI業務の予約から発注、廃棄までを一元管理しRI業務に携わったことのない者でも負担なく行えるシステムを富士通との共同製作にて構築したので報告する。

【方法】RISに於けるRI業務の予約から発注、廃棄までを一元管理する従来システムに頻用メニュー画面を作成することによりRI検査の90%強を一画面、しかもワンクリックで行える様に改良した。また予約枠に通常モードと緊急モードを持たせることにより、緊急検査への対応を簡略化した(下図に表すように、従来は撮影区分でまず腹部を選択しレントグラムをクリックしたが、それではレントグラムは腹部の検査だという知識が必要となる。そこで頻用画面を設けることによりワンクリックでレントグラムを選択できるようにした。尚、検査項目は予約頻度の高い順になっている。また通常モードでは、カレンダーが展開し予約可能な最も早い日付、時間枠を表示する。しかし、それより早い日付で検査を入れる場合至急枠をクリックすれば至急枠が、展開しOKを押すと予約完了となる)。

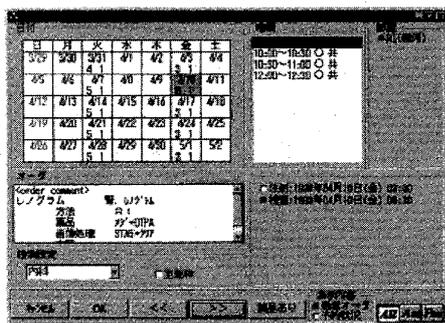
【結論】当予約システムを使用することによりRI業務を熟知していなくても行えるようにできたため予約、発注、廃棄に対する技師およびクラークの負担が軽減され、また予約業務等の時間の短縮が可能となった。また今問題にされているヒト血清アルブミンを含有するMAAなどの薬品管理に関しても記録簿に製造番号を貼ることで解決した。



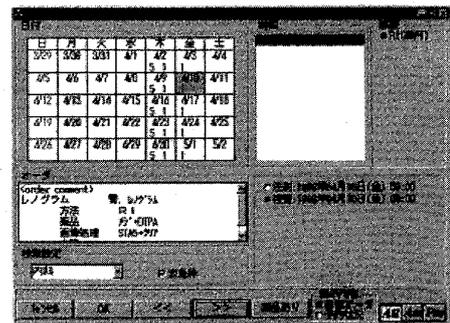
【従来画面】



【頻用メニュー画面】



【通常モード】



【緊急モード】